ポケモンの世界へ

零戦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポケモンの世界へ

【Ｎコード】
Ｎ７８４４Ｘ

【作者名】
零戦

【あらすじ】
大阪の普通の高校生やった俺――冬月将は目を覚ますと、ベッドの中にピカチュウがいた。
そしてそこはポケモンの世界やった。
これはゲームとポケスペを織り交ぜています。

ゲーム三割、ポケスペ七割といったところだと思います。

不定期更新です。

第一話（前書き）

ポケスペとゲーム（リメイク版じゃない）をしていたらつい書いてしまった。

第一話

……何故か朝起きたら隣にピカチュウがいた。（核爆）

「どゆこと？」

とりあえず、起きる。

どうやら俺はベッドで寝てたみたいや。

あ、自己紹介が遅れたな。

俺は冬月将で、普通の大阪の高三や。

バイト終わって、メシ食って寝たはずなんやけどな……。

辺りを見渡すと、本棚を見つけた。

……本棚の本はほとんどがポケモンに関する本やな。

てことは……此処はポケモンの世界か？

ピカチュウがベッドで寝てるしな。

「ショウ～、ピカ～。ご飯よ～」

階段から母さんの声が聞こえる。

この世界の母さんは母さんやねんな。（意味分からん）

「…ピカ？」

母さんの声にベッドで寝てたピカチュウが目を覚ました。

「……ピカ？」

あ、俺見て唖然としとるな。雰囲気とかで分かるんやろな。

「……とりあえずメシ食べるか」

俺はピカチュウに言うと、ピカチュウは俺の頭に乗っかる。

俺は階段を降りる。

階段を降りると前の世界にもいた母さんがいた。

「おはよう。ご飯出来てるわよ」

「うん」

俺はご飯を食べる。

ピカチュウも用意されたご飯を食べはじめる。

「あら？将もこの世界に来たの？」

「ブウゥッ！？Σ（゜Д゜）」

……まさか……。

「そゆこと。私も寝てたらこうなってたの。将より一週間も早くこの世界に来たのよ。理由は分からないけどね。まさか本当にポケモンの世界があるなんてね」

母さんが笑う。

そういや母さんはポケモンピンボールやクリスタルとかにかなりはまっていたな。

「とりあえず、イシツブテとロコン、ポッポ、メリープ、マリルを捕まえたわ」

「早ッ！！Σ（゜Д゜）」

てかマリルて滅多に出ないポケモンやで？

「たまたまスリバチ山に行ったら出てきたのよ」

……あんた凄いわ……。

「てか、よう俺やて分かったな」

「私はあんたの母親だよ」

……納得。

「あ、そういやウツギ博士が呼んでたよ」

「ふぅん……てここワカバタウンッ！？」

「そうよ。ついでに言うとリメイクのソウルシルバーとかじゃなくて旧作の金銀・クリスタルみたいよ」

「旧作の金銀・クリスタルッ！？イヤッフーッ！！」

俺は思わず叫んだ。

だって旧作の金銀・クリスタルは俺にとっては青春やで。

小学生の時にようやったわ……。

それに正直最近のは特性とかあるからあんま好きちゃうからな。

ディグダのありじごくから逃げられへんてのどういう事やねん。

「てことは、俺が主人公？」

「主人公は私がこの世界に来た時に出発したわよ」

「んじゃ何で俺？」

「それはウツギ博士に聞きなさいよ」

……へぇへぇ。

とりあえずメシを食ってウツギ博士の研究所に行った。

――――ウツギ研究所――――

「いらっしゃいショウ君」

研究所に入るとウツギ博士が出迎えてくれた。

「どないしたんですか？」

「実はね……」

簡単に言うと、オーキド博士が新しくポケモン図鑑を持ってくれたから俺も図鑑を完成させてほしいらしい。

「ポケモンはピカチュウだけだと心細いと思うから残っているヒノアラシを君にあげるよ」

「はぁ……」

てか図鑑あったんやな。

ウツギ博士によると主人公はヒノアラシ、強奪されたのはワニノコらしい。（俺がもらったヒノアラシはウツギ博士が腰を痛めた際、気分転換に外へ出たら草むらにおったらしい）

その後、研究員からモンスターボールとキズぐすりを貰って家に戻った。

……そういやモンスターボールてユーチューブのサイトで言ってたな。

人身販売やら窃盗やらどうやって大量生産してるのとか……。

―――自宅―――

「……という訳やねん」

「ふぅん……まぁ頑張りなさいよ」

……あっけらかんやなぁ。

「ポケモンと旅が出来るのだからいいじゃないの」

まぁそらそうやけどな。

「お金は貯金しといてあげるからね」

へぇへぇ。

「んじゃま行ってくるわ」

「行ってらっしゃい。ポケギアは持ってるんやからたまに電話しなさいよ。後、伝説ポケモン捕まえたら私にも見せてね。必ずよ」

「はいよ」

俺は準備をして母さんと別れの挨拶を交わして家を出た。

とりあえず、俺のママチャリの前カゴにピカとヒノアラシを乗せて出発した。

目指すはヨシノシティやな。

第一話（後書き）

御意見や御感想等お待ちしていますm（__）m

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7844x/

ポケモンの世界へ

2011年10月21日10時01分発行